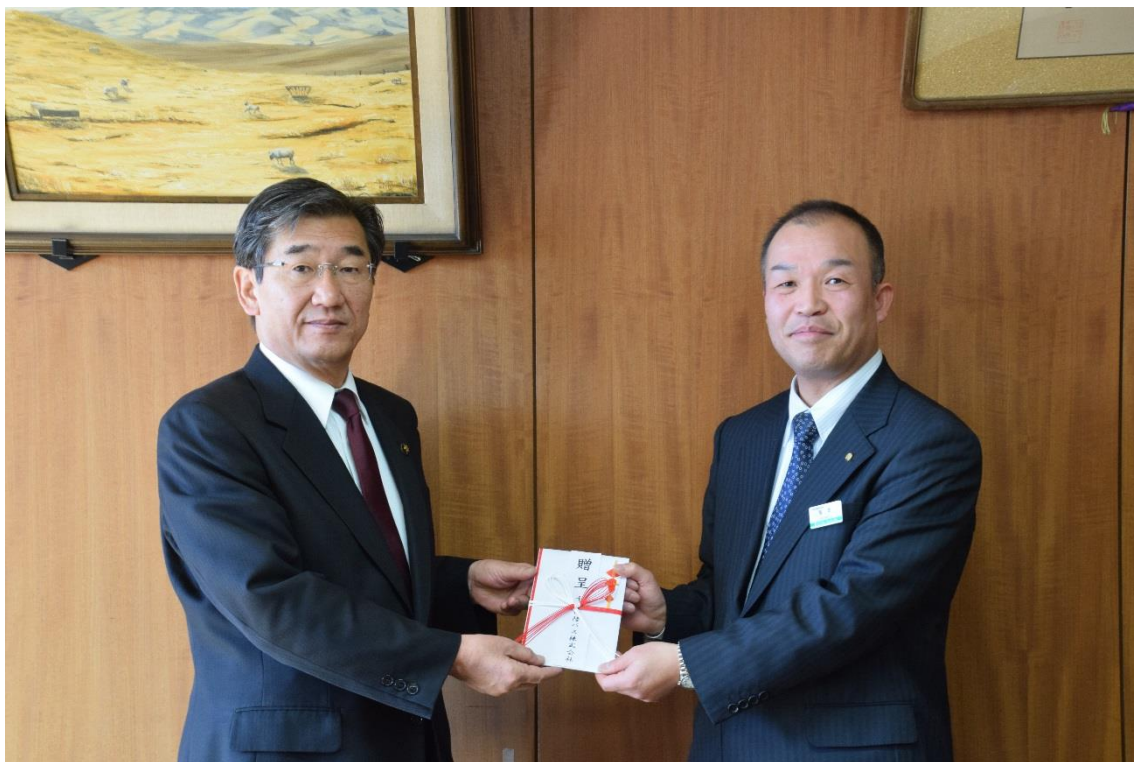


2018年1月29日

千葉内陸バス株式会社

## バス廃車部品販売の売上金の一部を 四街道市へ寄付しました

千葉内陸バス（本社：千葉県四街道市、社長：宮本 貴史）では、1月26日（金）に、四街道市役所を訪れ、当社社長より、佐渡 斉 四街道市長にバス廃車部品販売の売上金の一部を寄付しました。



寄附金受け渡しの様子（左側：佐渡市長、右側：宮本社長）

これは2017年11月5日（日）開催の「千葉内陸バス1185号車サヨナラバスツアー」の中で行われた「バス廃車部品販売」の売上金の一部と、2017年12月13日（水）開催の「千葉内陸バス1185号車 部品解体会」の参加費全額を合わせた50,000円を、社会福祉に役立てて頂けるよう四街道市の社会福祉基金に寄付したものです。

千葉内陸バスでは、今後も事業活動を通じて社会貢献を図ってまいります。

【ご参考】千葉内陸バス1185号車（いすゞKL-LV834N1）について

千葉内陸バス1185号車は、2002年3月に現在の京成バス江戸川営業所E117号車としてデビューし、2013年12月に千葉内陸バスで運行を開始いたしました。この車両は、いすゞ自動車「ERGAノンステップType-B」に、富士重工業（現：SUBARU）「新7Eボデー」を架装したのが最大の特徴で、「ERGAノンステップType-B」全体でも38台しか製造されていない、シャシとボデーの組み合わせが大変珍しい車両です。

運行から15年間、多くの方々に親しまれ、2017年11月5日（日）の引退を記念して、「千葉内陸バス1185号車サヨナラバスツアー」の開催や「引退記念乗車券」の販売等を実施しました。

以 上